

十三夜を思う

2023. 10. 1

美幌町図書館長 竹花 史康

先月下旬の「館長の一言」で、十六夜について触れました。

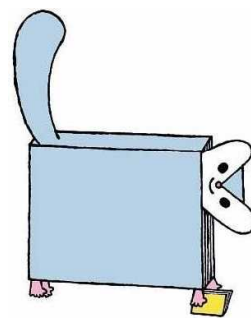
昔の人々は、十五夜の次の日、ためらいながら昇る月に十六夜（いざよい）と名をつけ心寄せました。

また、十五夜の一ヶ月後の十三夜（じゅうさんや）は、「十五夜」に次いで美しい月とされ、

「後の名月（のちのめいげつ）」とも言われています。この時期は晴れが多く、「十三夜に曇りなし」と言われるほどで、十五夜と同じように月見を楽しんでいたようです。

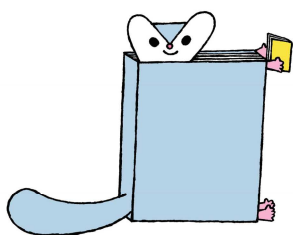
また、どちらか一方だけ月見することを「片見月（かたみつき）」といい、それは縁起が悪いと言われています。

ちなみに、今年の十三夜は10月27日（金）となっています。



「十三夜」といえば、思い起こすのはやはり樋口一葉の短編小説『十三夜』です。

ストーリーは、結婚したものの、無情な夫に耐えかねた女が、ある夜、幼な子に別れを告げて無断で実家に帰る。それがおりしも十三夜であった。しかし、悲しい結末へと・・・。



昔の人は、十五夜、十六夜、十三夜をそれぞれどんな気持ちで眺めていたのでしょうか。

私も、今年は今まで一度も眺めることのない十三夜を、少しばかり風流な気持ちで過ごしたいと思っています。